

日車協連

24年度車体整備士向け講習

流通／アフターマーケット

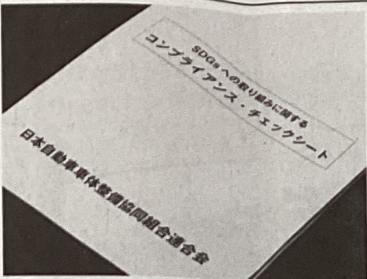
コンプライアンスを追加

3千人の受講を目指す

日本自動車車体整備協同組合連合会（日車協連、小倉龍一会長）は、2024年度に実施する自動車車体整備士対象の講習にコンプライアンス（法令順守）の内容を盛り込む。講義の軸となる「コンプライアンス・チェックシート」も大幅に改定し、ユーザーとの取引上の注意点を法律や行政の通達などの根拠を基に確認できるようにした。電気自動車（EV）の普及が進む中、車体整備におけるコンプライアンスの徹底で、作業時の安全性確保にもつなげる狙い。年度内に全国の組合員の中で、約3千人の受講を目指す。

送車両法や労働安全衛生法など取引を進める上で重要なポイントを確認しやすくなった。これにより、整備事業者または企業として、適切な対応ができる環境を整える。また、講義のメインとなるEV編では、電気基礎知識

から車体整備における注意点などを中心に講習を実施する。国内外の自動車メーカーによる市場投入の加速で、EVの普及が進んでいる。こうした最新車両でも事故が起きれば、車体整備の事業者に入庫依頼が入る可能性がある。EVに使われる新素材や技術などへの知見もいち早く習得していくことで、EV時代にも対応した労働安全衛生環境の構築につなげる考えだ。



コンプライアンス講習は、車体整備士の再教育プログラムとして知識と技能の向上を目的に展開する「高度化車体整備技能講習EV編」に取り入れる。これを使うコンプライアンス・チェックシートは写真1は22年度に発行したばかりだったが、23年12月に改訂。ページ数も従来の倍以上となる36ページに増やした。改訂版には車体整備や板金塗装（BP）に関わる道路運

9カ月連続でプラス

1月中古車 増加幅は減少

日本自動車販売協会連合会（自販連、金子直幹会長）と全国軽自動車協会連合会（全軽自協、赤間俊一会長）が13日発表した1月の中古車登録・届け出台数は、前年同月比5.4%増の46万860台となり、9カ月連続でプラスとなった。ただ、増加幅は前月に比べて2.1%減少するなど、これまでの勢いに陰りも

見え始めた。実際、例年盛りの上がりをみせる初売りイベントでも、「消費者の財布の紐が堅い」という中古車事業者も出ている。引き続き上昇気流を維持するには、業界一丸となった取り組みが必要になりそうだ。

1月は登録車、軽ともに、前年同月を上回った。新車供給の平準化が進んだことで、

2024年1月 中古車登録・届け出台数

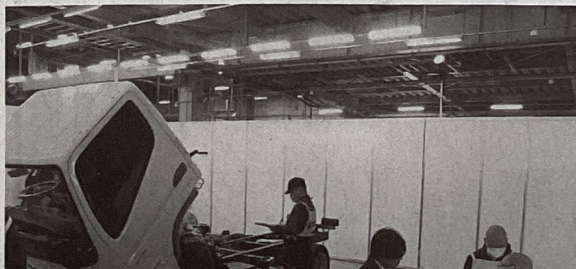
車種		1月	
登録車	乗用車	普通	135,130 (12.5)
		小型	86,952 (1.9)
	小計	222,082 (8.1)	
貨物車	普通	10,399 (1.5)	
	小型	13,691 (8.2)	
	小計	24,090 (5.2)	
バス	526 (▲6.6)		
その他	4,306 (▲0.2)		
合計	251,004 (7.6)		
軽自動車	乗用車	168,649 (2.9)	
	貨物車	41,207 (2.5)	
	合計	209,856 (2.8)	
中古車合計	460,860 (5.4)		

※単位：台、カッコ内は前年同月比増減率%。▲はマイナス

2024年1月 中古輸入車登録台数

車種		1月	
乗用車	普通	32,307 (6.0)	
	小型	4,398 (▲9.4)	

4年半ぶりに復活



セールス&カスタ

三菱ふそうトラック

三菱ふそうトラック・バス スタマータは、本社（川崎市中原区）で「ト」を開催。2024年度セールス&カスタム（ト）

遅れると、下取りや買い取りも減り、中古車の供給にも影響が出る懸念もある。自販連がまとめた1月の中古車登録台数は前年同月比7.6%増の25万1004台。

前年超えは、うち乗用車22万2008台が同12.3%増の8

多くの整備学校と同様に、

き。さて4。ま

募集活動の軸を留学生に移す が少なくない。大学を